

行橋市延永ヤヨミ園遺跡 調査再開

発掘新聞

8月8日号

発掘速報展 2012

開催中不定期発行

編集・発行

九州歴史資料館

電話 0942-75-9575

いよいよ、古墳時代初頭の 首長居館の内部施設判明か



延永ヤヨミ園遺跡で発見された、古墳時代初頭の首長居館と思われる、四角形の区画溝
|| 当館撮影



村山健治氏収集資料展
第1展示室で開催中

当館では、今月20日より行橋市延永ヤヨミ園遺跡の溝で囲まれた区画の内部の発掘調査を開始する。この溝は、古墳時代初頭（今から約1700年前）の首長の居館跡の可能性がある。

延永ヤヨミ園遺跡は、弥生時代後期〜古墳時代前期ならびに古墳時代後期に大集落が形成されている。その後の飛鳥・奈良時代には大型建物跡や井戸、道路がつけられ、木の板に文字を書いて荷札などとして使用した「木簡」や、土器に墨で文字を書いた「墨書土器」が発見された。また九州初出土となる、弥生・古墳時代の木製導水施設も発見し、昨年話題となったことは記憶に新しい。

今回の首長居館と考えられる区画は、今年5・6月に当館が行った発掘調査で発見されたもので、東西22×南北20mのほぼ正方形に溝が巡り、南側のみ陸橋（入口）が検出された。その調査の際は、ちょうどこの区画中央を道路が走っており、建物などの内部施設は確認できなかった。

今回、遺跡の重要性にご理解いただいた周辺の方々及び国土交通省の協力のもと、調査の支障になっていた道路下部分の発掘調査を行うことができるようになり、この区画内部の施設や構造がわかる可能性が高まった。

この成果については、来年度の発掘速報展及び調査報告会で紹介する予定。
是非ご期待下さい！
（大庭孝夫記者）

延永ヤヨミ園遺跡はまかせてください。

熱く意気込む当館文化財調査室 城門義廣主任技師



私は以前延永ヤヨミ園遺跡の発掘調査を担当し、木製導水施設をはじめとする数々の重要な調査成果をあげました。今回も私が古墳時代初頭の首長居館の内部施設を明らかにします

【告知】

こども考古学体験講座
9月17日（月・祝日）

普段は体験することができない実際に発掘調査で出土した資料を使って、考古学を体験しちゃいます。

参加費 無料
申し込みは当館受付で

【告知】

現在開催中の「発掘速報展2012」、展示パワーアップ中、詳しくは展示会場入口の展示更新案内で

次号も不定期発行ですが、福原長者原遺跡特集で行く予定です。